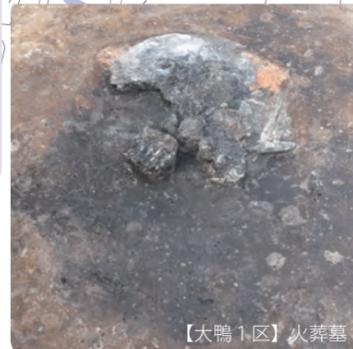


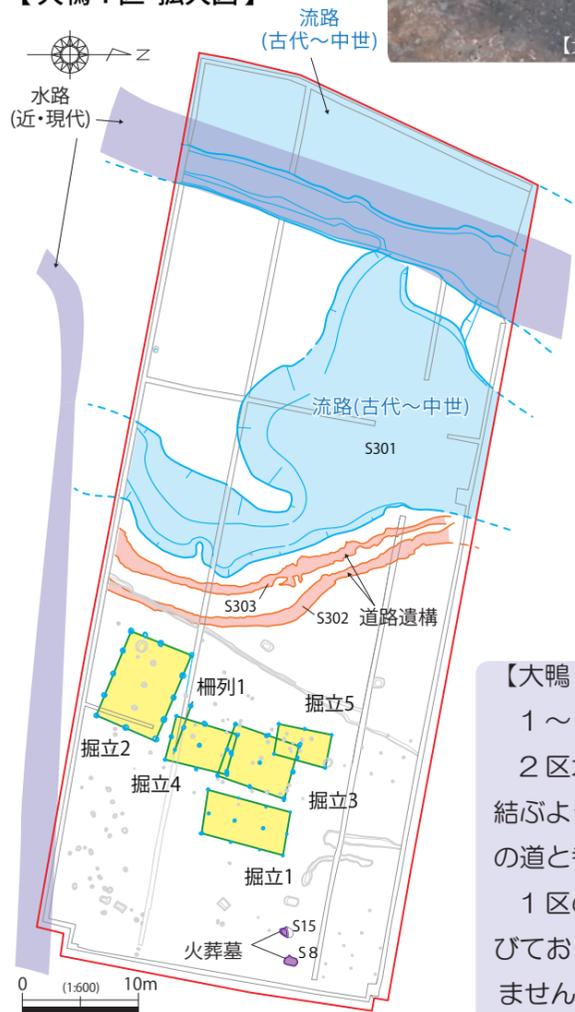
【大鴨1区】中世墓

調査区の北東で2基の火葬墓が見つかりました。このうち1基は残りがよく、火葬された様子がよく分かります。頭を北（写真上）にして、膝を抱えたように西方向（写真左）を向き、頭の近くには素焼きの皿（土師器）が供えられていました。この皿の形や作りから、室町時代の墓であることが分かります。骨は土ごと取り上げ、クリーニング中です。

今後はX線写真を撮影して、銅銭のほか、毛抜きや鉸などの副葬品がないか調べる予定です。



【大鴨1区 拡大図】



【大鴨1～3区】道路遺構

1～3区それぞれから道路遺構が見つかりました。2区北側の道路遺構は、石塚廃寺跡と木製祭祀具の出土地点とを結ぶように延びていることから、寺から水辺の祭祀場へ降りるための道と考えられます。1区の道路遺構は奈良時代から中世の流路の岸に沿って南北にのびており、南のほうから届いた物資を寺に運ぶ道だったのかもしれない。

調査地全体図

※図中の近・現代の流路は現在は埋められています。
図中において「掘立柱建物」を「掘立」、「竪穴建物」を「竪穴」と省略して表記。

- 凡例
- 奈良時代の掘立柱建物
 - 平安末～鎌倉時代の掘立柱建物



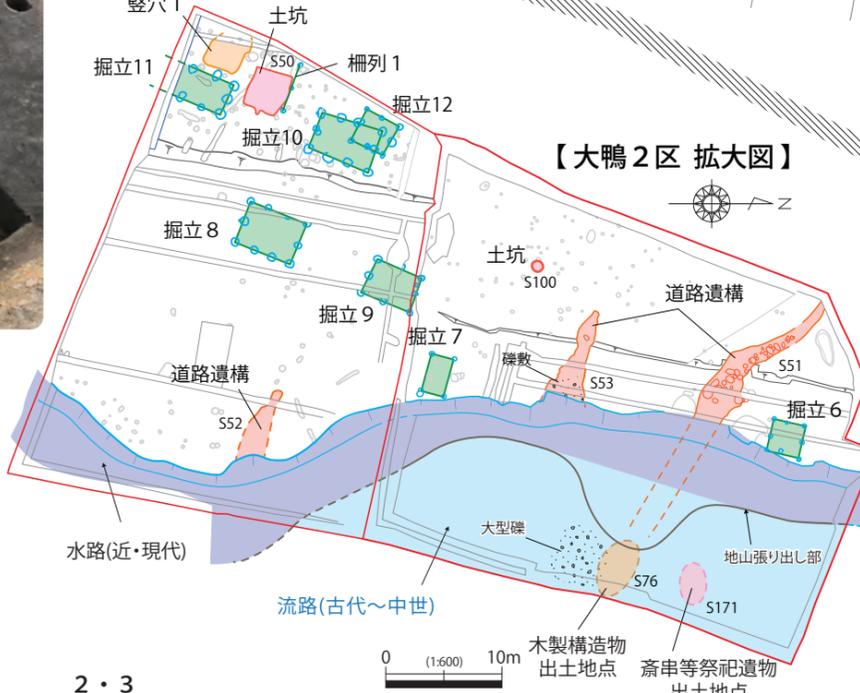
【大鴨2区】木製構造物

流路の中から、木や枝で造られた構造物が見つかりました。この構造物は流路の中に張り出すように位置していることから、土手の芯材ではないかと考えています。川の流れを弱めて祭祀を行う水辺を作るための土手かもしれません。

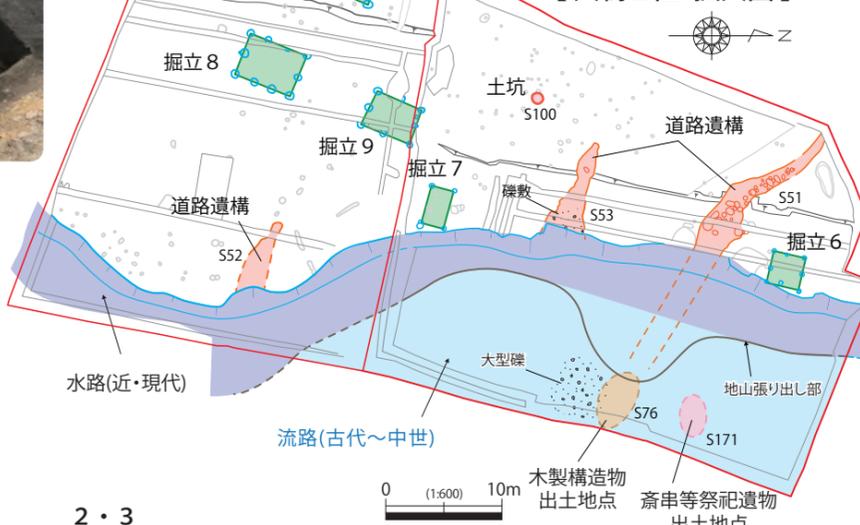


大鴨遺跡 石塚廃寺東遺跡

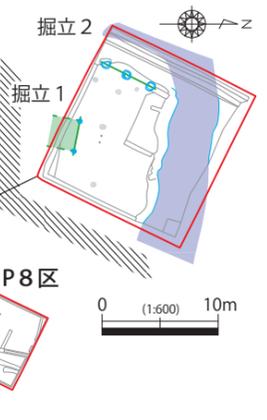
【大鴨3区 拡大図】



【大鴨2区 拡大図】



【P7区 拡大図】



【大鴨2区】水辺の祭祀場

両側面に連続する切り欠きを施した齋串と呼ばれる木製祭祀具（木を素材とするマツリの道具）が見つかりました。木製祭祀具はバラバラにならずにまとまっていることから、「マツリ」を行った後に、まとめて廃棄されたと考えられます。

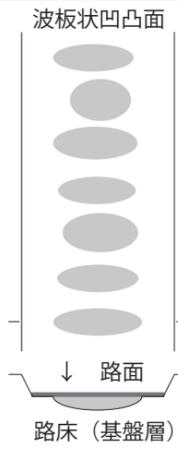
いしづかはいじひがしいせき おおがもいせき 石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡現地説明会資料

公益財団法人鳥取県教育文化財団 調査室

道路遺構

大鴨遺跡では、奈良時代の道路遺構が、1区で2本、2区で2本、3区に1本、計5本見つかりました。いずれも底面に小さな穴(くぼみ)が並んでいましたが、これは「波板状凹凸面(右図)」と呼ばれ、奈良・平安時代の道路遺構に特徴的に見られる痕跡です。路床工事や歩行の痕跡等の説があります。

2区北側の道路遺構では、波板状凹凸面の穴の中から多数の石が出土しました。また穴には重複があることから、この道路遺構は造り直しが行われたようです。



木製祭祀具

大鴨遺跡や石塚廃寺東遺跡の流路から、木製祭祀具が出土しました。これらの祭祀具は、その形や周囲から出土した土器から奈良時代から平安時代にかけてのものと考えられます。

主なものは、「齋串」^{いっくし}、「刀形」^{かたしる}や「馬形」をした「形代」^{けいだい}です。齋串は、祭祀を行う場を区画する結界に用いられ、馬形は立てて使ったと考えられています。

齋串の多くは薄い板状で、2区でまとまって出土した齋串の多くは両側に連続する切り欠きがあります。その他に、先端を尖らせただけのものや、角棒状のものもあります。

刀形は木製構造物の中からほぼ完形のもの出土しています。

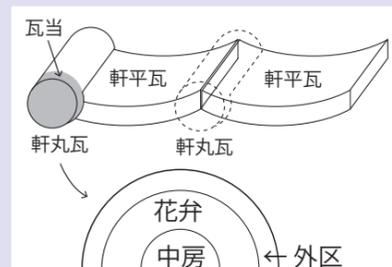
馬形は尾部を欠損していますが、鞍の表現があり、腹部の側面には立てて使うための小さな板が埋め込まれた痕跡があります。

これらの齋串・形代はケガレを祓うなどの「神マツリ」に使われたと考えられます。お寺の近くでこうしたマツリが行われていたということは、当時は「神と仏」の区別があまりはっきりしていなかったのかもしれない。

のきまる のきむら 軒丸瓦・軒平瓦

奈良時代に建てられた石塚廃寺で使われていた瓦(写真)が出土しました。

古代の瓦は現代の瓦とは異なり、丸瓦と平瓦を交互に並べて使います(下図)。軒丸瓦^{かとう}の瓦当は蓮の花びらや中心にある花托をデザインしており、今回の調査では花弁^{かべん}や中房^{ちゆうぼう}のデザインが異なる2種類が見つかりました。また軒平瓦は、忍冬唐草文や線を重ねた二重弧文など、3種類が見つかりました。



不明木製品



【調査全体】公益財団法人鳥取県教育文化財団
【遺跡の所在地】倉吉市石塚・福山地内
【調査面積】石塚廃寺東遺跡 1,995.2㎡
大鴨遺跡 4,900.5㎡ 計 6,895.7㎡
【調査期間】令和2年6月1日～12月初旬(予定)

石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡の発掘調査成果

石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡は倉吉市石塚から福山にかけて広がる集落・祭祀遺跡^{さいし}です。通称「天神野台地」^{てんじんのだいち}と呼ばれる丘陵の裾部に立地し、県史跡石塚廃寺跡の東側に隣接します。今年度の調査成果として以下の点を挙げるすることができます。

- ①石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡で古代(奈良時代)から中世(鎌倉時代)に至る川跡が発見され、寺院周辺の景観の一端が明らかとなりました。
- ②大鴨遺跡で多量の木製祭祀具(奈良時代)が川岸で出土しました。出土地点と石塚廃寺跡を結ぶ道路遺構が見つかることから、寺が関わる水辺の祭祀が行われていたことがわかりました。こうした祭祀は古代の役所(官衙等)付近で見つかる事例は多いですが、寺院との関わりが明確なものは全国的にも極めて少なく、県内では初めての確認となります。
- ③石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡から石塚廃寺の瓦が多量に出土しました。詳しいことがよくわかっていない石塚廃寺の実態を解明するうえで、貴重な手がかりが得られました。
- ④大鴨遺跡で鎌倉時代の屋敷地と室町時代の墓地(火葬墓)が発見されました。

